



相変わらず元気です（名誉教授の近況）

藤田，拓男

(Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 16:51-52

(Issue Date)

2000-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81007647>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007647>



相変わらず元気です

前神戸大学第三内科学講座教授 藤 田 拓 男



平成3年4月に、第三内科から国立療養所兵庫中央病院に転出し名誉教授の称号を頂いてから9年になります。今になって考えると神戸大学で勉強させて頂い

た13年間は、どれ程貴重な経験であり、又、現在の私に、どれ程大きな影響を及ぼしているかは、測り知れないものがあります。多くのすぐれた研究者・臨床家とともに、自分の持っている力をすべて出しつくして、教育・臨床・研究に期待された仕事をし、世界的なレベルをめざしました。現在の私に出来ること、それは勿論その頃出来たこととは比較になりません。しかしながら、大学在任中にすべてのエネルギーを使い果たして、燃えつきたとか、ぬけ殻になっ

たのかというと、必ずしもそうではなく、私は相変わらず元気です。

昨年9月のセントルイスでのASBMRでMayo ClinicのRiggs博士から、「頑張っているな。内科の教授の頃よりも、論文の数が多くなったね」と声を掛けられて、私が尊敬し又目標としている人だけに、嬉しく思いました。アメリカの大学には停年がなく、これは憲法に基いて年齢による差別をしてはいけないからだそうです。勿論、神戸大学在職中の多くの協同研究者によって書かれた論文に、内容のよく理解出来ないものまで、名前を入れて頂いた数は非常に多く、全業績として英文原著が500を超えますが、本当に自分で考えて苦勞して書いた論文の数は少く、かえって現在の方が多いのかもしれません。大学では、管理的な仕事、教育や会議

に当然時間が必要ですので、大学から離れた現在の方が時間にゆとりがあり本当に自分の興味のあること、新しいことを見つけて報告することに専念出来るからです。

現在最も力を注いでいるのは骨粗鬆症で、岸和田の葛城病院に火水金の3日出掛ける他、月1回寝屋川の小松病院、垂水区の藤井内科クリニックで骨粗鬆症外来をしています。お年寄りの最も困っている症状は腰背痛でその約半分が骨粗鬆症、半分が変形性脊椎症によるものですが、骨粗鬆症の治療薬であるビスフォスフォネートの一つであるダイドロネルが、変形性脊椎症や変形性膝関節症から来る疼痛によく効くことを見つけました。又皮膚のインピーダンスの下降から痛みを客観的に数量的に表現することが出来、これが運動器の痛みだけでなく狭心痛、その他の痛みにも応用出来ると思います。痛電図(electroalgogram, EAG)という名前をつけています。カルシウムの不足は骨からのカルシウムの放出をおこし、これが軟骨に入って変性をおこし、又血管や脳に入って色々な生活習慣病をおこします。カルシウムの不足の時に、軟

部組織では逆にカルシウムが増加するので、カルシウムパラドックスと呼んでいます。

平成3年には、骨粗鬆症財団をつくり現在理事長ですが、アメリカのNational Osteoporosis Foundation、ヨーロッパから起ったInternational Osteoporosis Foundation、アジアのAsian Pacific Osteoporosis Foundationとの協力で骨粗鬆症による骨折のない21世紀を目指しています。臨床研究のあり方がevidenceを求めることになりその対応に追われています。医師医療関係者の他に、患者と一般公共の理解を深めることが現在の最も大きな課題です。骨粗鬆症友の会をつくりホームページにどなたでもアクセスし質問出来る様にします。平成11年には日本骨粗鬆症学会を設立しました。生活習慣病のかなめである骨粗鬆症の診断・治療について、世界の水準と常識にもとづき、これをリードして行くことを目指して努力しています。骨粗鬆症は治り又予防出来る病気です。先ず神緑会の皆様の御理解と御支援を御願い申し上げます。

一冒頭の写真は、第4回世界骨粗鬆症患者の会で、カナダ・トロント1999年9月ー